

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790200133		
法人名	株式会社ケアネット会津サービスセンター		
事業所名	株式会社ケアネット会津サービスセンター グループホームあいづ		
所在地	会津若松市門田町工業団地37-1		
自己評価作成日	令和2年8月11日	評価結果市町村受理日	令和3年3月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3
訪問調査日	令和2年10月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様一人一人が生き生きと自分らしい生活が出来、家族とのつながりも持ちつつ支援している。ご利用者様の気持ちに寄り添い不安を忘れて明るく楽しくその人らしい生き方が出来る様サポートしています。また看取りに対しての不安があるが訪問看護ステーションや主治医との連携が図れるよう少しでもいつもとおかしいと思ったことは相談できるよう関係性の構築を築けるよう努めています。新型コロナウイルス感染拡大防止を図りながらもご家族や地域との交流も新しい生活様式の中作り上げていかなければならず大変ですが、富士通グループの介護分野の中でインターネットやITなどの強みを生かし対応していきたいと思えます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 現在はコロナ禍で中止になっているが、地域の運動会・お堂の清掃などに利用者とともに参加している。事業所は工業団地の一角にあり、周囲に住宅がないため、寺院の行事にも参加し、長年に渡り地元中学校の職場体験も受け入れるなど地域との交流に積極的に取り組んでいる。
 2. 同法人の隣接施設の作業療法士等の指導を受け、個々の利用者の状態に応じて椅子に座ったままできるミニサイクルなどの器具を使用したりハビリを日課とし、利用者の体力維持や身体機能の低下防止に努めている。
 3. 職員の資格取得を推奨し、6割の職員が介護福祉士で占めている。また、職員の研修履歴に基づき県外を含めた外部研修に計画的に派遣し、職員の資質とサービスの質の向上に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は事業所職員みんなで考えて作ったものであり、その理念の元で日々ケアに取り組んでいる。またGH会議開始時に唱和を行ない初心を忘れずケア出来る様に努めている	理念は、10年前の開所時に職員全員で考え策定したものである。3年前に見直しを行ったが、文言を変更する必要はないとの結論となった。理念は休憩室・事務室に掲示するほか、会議の冒頭で唱和し浸透を図っている。また、毎日の申し送りの時に、日頃のケアが理念に沿っているかを話し合い、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事も新型コロナウイルスの影響により中止になっている。再開された時に関係性が途切れないように職員のみでの参加はさせて頂いている。	地域の運動会・清掃活動・お祭り・寺院の行事に利用者とともに参加して、地域住民との継続的な交流に努めている。また、長年に渡り地元の中学校の体験学習を受入れ、利用者との交流を図っている。さらに、地域のボーリング大会では、職員が運営の手伝いを行うなど地域住民の一員として、地域に溶け込むように努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域とのつながりをもっと広めていきたいとは思っており認知症を理解してくださる人が1人でも多くなっていく為にも多くの人と接する場を増やしていきたい		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	定期的な開催が新型コロナの影響から今年度は出来ていないが、GHの状況をお伝えし情報共有できるよう努めている。	利用者・家族・地域包括支援センター職員、さらに近隣の2つの地区の区長が参加し、2か月に1回共用デイサービスと合同で開催している。委員は避難訓練に参加し、過去の洪水被害などの情報や意見を伝えてくれている。委員の意見により防災頭巾を購入し配置するなど、出された意見は運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日常の災害や感染対策を講じての会議の開催・延期などの情報を頂いたり密にコミュニケーションをとっている。	市の担当者からは、新型コロナ感染対策などの情報を得ている。また、運営推進会議の開催や介護保険に疑義が生じた場合などは、その都度電話で相談している。さらに、利用者の要介護認定更新手続き等で市に出向いた時に情報交換を行い連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束しない、虐待防止の研修に参加したり、ご家族からの要望があっても身体拘束委員会での検討やセンターとしての方針を組織ぐるみで話し合い対応が出来ている。	身体拘束廃止委員会を毎月開催し、事業所会議で報告し、身体拘束をしないケアの実践について話し合っている。また、申し送りの時に互いのケアを確認しながら身体拘束をしない対応について話し合ったり、事業所内研修で拘束に当たる具体的な行為を確認するなど身体拘束をしないケアに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が理解しており日々のケアでも意識しながらも介護にあたっている。また定期的なケアの見直しや日常の申し送りで職員同士のケアにおかしい部分がないかお互い声掛けを行なっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見人を利用していた方はおられないが、必要性のあるご利用者様が発生した場合には関係者と相談しながら進めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にはご利用者様やご家族様へ重要事項・契約書の内容を説明し入所時にも再度説明し捺印を頂くようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的にご家族については面会や受診対応時意見を伺っている。中々来所できない家族には電話やアンケート等で意見を頂いている	年2回家族会を開催し、家族だけで話し合う時間を設け、意見や要望を出してもらっている。また、毎年サービス向上委員会が家族アンケートを実施し、その内容を職員に伝達するとともに改善を図り、結果を廊下やトイレ前に掲示し周知している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にGH会議で問題点を話し合い問題点を話し合い改善していくようにしている。直ぐ実践に繋げられるようにしている	申し送りや事業所会議の時に、職員の意見を聞く時間を設けている。また、毎年2回の定期面談の他に必要に応じて職員との面接を行い、意見の把握に努めている。新型コロナで利用者との買い出しが困難になったことから、食料品を配達による購入に変更するなど職員提案を運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務形態については職員の家庭環境に応じた労働環境になる様話を聞き対応している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は職員間で平等に受けられるよう年間計画で予定を組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症グループホーム連絡協議会に入り研修会に参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前よりアセスメントを行い利用者様とご家族の要望を聞きながら本人が不安なく安心できるような関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメント時契約説明時にご家族の不安や困っている事を聞いてご家族の要望などを伺いコミュニケーションをとりながら安心できる関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所後の利用者様の様子を見極め困った事や不安なく過ごせるように必要な支援を話し合いスムーズに対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様一人一人の出来る事を見つけてお手伝いなどの声掛けをして一緒に共有することで信頼関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や電話等でご家族とのつながりを持ちご家族にも今の状況を伝えながら一緒に利用者様を支えていくよう関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や親せきの方の来訪などご家族の支援や協力をもらいながら関係が途切れないよう支援している	携帯電話を保有している利用者があり、操作が分からない時は職員が手伝い、家族や友人と会話できるよう支援している。また、年3回ケアネット便りを発行し、併せて利用者の写真と担当職員による近況報告(手紙)を家族へ送付し、関係が途切れないように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の性格や行動を把握し関係性に配慮し楽しく過ごすことが出来るよう、職員が間に入り支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	弔問に出向いたり行事の案内を出し参加して頂いている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様との会話や表情などから気持ちを汲み取ったりうまく言葉に出せない思いを理解できる様に努めている。 センター方式によるアセスメント・カンファレンス、毎日の申し送りによりご利用者様本位の対応を検討している	家族から得た生活歴等の情報をもとに、普段の利用者との会話を職員間で共有しながら、センター方式を活用して一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。会話が困難な利用者の思いは、表情を読み取り、顔きなどの反応を観察して把握するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や面会に来られた方にはこれまでの生活歴や暮らしぶり、人付き合いなどを伺い把握する様にしている。ご利用者様との会話からも今までの生活について伺った内容を記録に残し情報の共有、把握ができるようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態把握に努め職員間でも情報共有しながらご利用者様の心身の状態に合わせご利用者様のペースに合わせた生活に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様の担当職員を作り6ヶ月ごとにモニタリング、アセスメントを行いカンファレンス開催し介護計画や状況の変化について話し合いを行っている。急激な変化があった場合にはその都度カンファレンスを行っている。	入居時は、実態調査の情報や本人・家族の希望に基づき、1か月のプランを立てている。入居後に居室担当職員が収集した情報やモニタリングをもとに担当者会議で他の職員の意見を反映しながらケアプランを作成している。現在は、利用者の状態が安定しているため、ケアプランは6か月ごとの見直しにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づき日々の様子や変化を記録し情報の共有を行ないケアの見直しに活かしている。 新たなケアの見直しについてはカンファレンスを開催し情報の共有とケアの工夫より良いケアの実践を迅速に行えるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診などは基本ご家族にお願いしているが、急に都合が合わなくなった時などはこちらで対応している。往診に立ち会えない場合でも主治医に相談したいことや報告事項などは職員を介して意思伝達できるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事等で地域資源の把握や地域の皆様との交流に努めている。今年度は新型コロナウイルス感染予防の観点から交流する機会も減っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医へ受診しご家族の協力を得ながら通院または通院が困難な方には職員が対応したり、往診されている	入居時、利用者・家族・事業所との間で話し合いが持たれ、受診医療機関を決定している。かかりつけ医受診には、原則家族対応で通院し、事業所から医師への情報提供として「気づきチェック表」へ記載の上、家族に託している。家族が困難な時には、職員が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良やバイタル異常、緊急時には連携した訪問看護師に連絡しその都度対応して頂いている。 また週1回訪問看護師に現状を報告し相談しアドバイスや指示を頂き、情報共有を図っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、入院中退院時とご利用者様やご家族様が安心して入退院が出来るよう医療関係者と良好な関係を作るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針を作成しご家族に説明を行なっている。 状態の変化などはご家族に報告し今後予見される状況を報告し将来的な方向性を相談している。 急変時の希望等をご利用者様、ご家族で話し合ってもらえるように進めている。	入居時、事業所より利用者・家族に対し、「重度化・終末期ケア対応指針」に沿って事業所として支援可能な内容について説明を行い、同意を得ている。看取りに関する判断は、主治医により家族や事業所に説明され、家族による看取り意向の確認後、看取り介護計画を作成し、家族・医師・看護師・職員の協力を得て支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを配置し定期的に救命講習やAEDの使用方法を確認している。急変時のマニュアル等を作成し対応方法の確認、全員が理解対応出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防署立ち会い訓練(地震と火災・洪水想定)、夜間を想定した避難訓練を行わない避難経路の確認、ご利用者様の誘導など問題点を見出し改善しながら訓練を継続している。また、離園のヒヤリハットもあり事業所全体の訓練も行なっている。	事業所の消防計画に基づき、消防署立会いの総合防災訓練(地震・火災・洪水想定)、事業所単独の夜間想定避難訓練や避難経路の確認等を実施すると共に、地域の消防団員に協力隊として参加いただき、災害時における利用者の安全確保を確認している。米・水・缶詰・自動発電機・防災頭巾等の非常時備蓄品がある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様の性格や生活のペースを尊重し負担に感じたり、プライドが傷ついたりしないよう配慮した声掛け、対応を心掛けている。時には方言を使ったり、その方にあった話し方を選んでいますが尊敬の想いを込め対応している	利用者一人ひとりの現在まで過ごして来た生活歴や経験を理解し、その思いを尊重し、プライバシーを損ねないよう心掛けている。常に利用者の立場に立ったサービスの提供が出来るよう声掛けなど対応を支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様が何を望んでいるのか、お気持ちを考えながらその方の希望を引き出し気持ちに添えるような対応を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分に合わせて本人の希望に添った柔軟な対応が出来るよう心掛けている 職員の都合ではなくご利用者様が望んでいる暮らしのペースに合わせてくれるよう支援に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で着たい服装を選んでもらっているが出来ない方にはその方らしい好みのものを選ばせて頂いている。外出時にお化粧したり、時々はマニキュア塗って喜んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食材の下ごしらえ、後片付け、食器拭きなど出来ることは積極的にお手伝い頂いている。 時々畑から収穫された野菜を料理することで会話しながら楽しませている。 ご利用者様の状態に合わせて器やスプーン等介助具も工夫している	調理の準備・後片付け・食器拭き等、利用者と職員とが協力し合って行っている。食事も同テーブルで楽しく会話をしながら一緒に摂っている。メニューは、職員が作り、事業所の畑で収穫した野菜等も食材として調理され話題になっている。嗜好品は、誕生会や敬老会に行事食として提供されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりの好みや状態に合わせて、食事形態を工夫し、代替食品も用意している。 毎食ごと食事量も記録し場合により栄養補助食品も摂って頂いている。水分量も記録にとり少ないときには好みの飲み物で水分量が確保できるように工夫している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛け、必要な方はセッティングや介助を行ない、就寝時には義歯の洗浄を行って口腔内の清潔に努めている 歯ブラシ、コップ、義歯ケースも定期的に消毒し衛生管理している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックし排泄パターンを把握しています。トイレでの排泄が出来る様トイレ誘導や声掛けを行なっています。	排泄チェック表を基に排泄パターンを把握し、プライバシーを守りながらトイレへの声掛け誘導を行っている。また、利用者の表情や仕草からも排泄の意向を汲み取っている。この結果、日中帯はリハビリから布パンツへ改善された利用者もおり、トイレでの排泄が長く続けられるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	生活の中で運動量や水分量を増やしたりしている。便秘傾向の方には腹部マッサージを行ない自然に排便を促す。主治医に相談し排便のリズムを整えていくように努める		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	気持ち良く入浴できる様な声掛けを心掛けている。無理強いせず次の日に勧めたり清拭で対応する時がある。	入浴は週2回を基本としているが、利用者一人ひとりの希望や体調を考慮して支援している。入浴が楽しいものとなるよう、声掛けや会話に工夫している。また、菖蒲湯やゆず湯を採り入れ、季節を感じてもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は適度な運動や活動を取り入れメリハリある生活リズムを作ることを心掛け夜間の安眠に繋がっています。一人ひとりの体調に合わせて日中でも休む時間を設けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬管理表で一人ひとりの薬の効果や副作用について把握する様にしています。変更後の薬の作用による体調の変化など観察し職員間での情報の共有に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の生活歴や職歴など情報収集を行ないやりがいや喜びを感じて頂く事が出来る役割活動を行なって頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナ感染拡大予防の観点から外出支援が難しく実施できていない。季節が感じられるよう施設付近の散歩をしたりテラスへ出てお茶を飲まれたりしています。	今年は、新型コロナの影響を受け、外出支援や家族との面会が難しくなっており、以前のような対応は、出来ていないが、車から降りないようにしてドライブに出掛けている。また、天候の良いときには、事業所の周りを散歩したり、テラスに出て外気浴を楽しみながら、気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金はお客様の財産であり職員で管理させて頂いています。お金のことを心配される方には話に耳を傾け不安の軽減に努めています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	新型コロナウィルスの影響があり面会の一部制限も現在も継続させて頂いている。今までの当たり前の生活に制限を設ける事でのストレスや不満もみられる。耳の聞こえが悪い方は電話でのコミュニケーションは難しいが電話したい話したい欲求で面会できない間は落ち着いた様子が見られていた。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様同士のトラブル防止の為座席の位置向きも配慮している。季節が感じられるよう花を生けたりコロナウィルスで外出が難しいのでテラスへ出て日向ぼっこしたり気持ちよく過ごせる様配慮している。	廊下・居間・食堂等に利用者が製作した季節を感じる作品や行事の写真が飾られ、憩いの空間が構築されている。また、職員が換気・温湿度・清掃に常に配慮しており、不快な音・光・色等は感じられない。なお、事業所内は床暖房になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	転倒の危険性も考え居室環境の整備や歩行補助具の必要性なども話し合い安全にも配慮している。居室で1人である方はごく一部で居間での広い空間の中仲の良いご利用者様とも過ごせる様配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	家族の写真や自分で作ったこだわりのぬいぐるみなど持参され安心して過ごせる様努めています。	居室には、家族と相談の上自宅で使い慣れたタオルケット・肌掛け・椅子等を持ち込み、また、家族の写真や可愛がっている自作のぬいぐるみ等を飾っている。その人らしい落ち着いた着きのある、安心して生活が送れるような環境を整備している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	失禁なく排泄できるが夜間帯職員が1人で立位保持も難しいご利用者様の対応について、居室内にもトイレは設置してあるが安全にトイレ誘導が出来る様ベット脇にポータブルトイレを設置し誘導を行なった。排泄後は本人も訴えなく休む事が出来工夫をすることで職員の負担も軽減できた。		